

# 抑制トマト

やさいの里営農センター トマト専門営農指導員 川島 俊一



## 農作業

# テクニカルダイアリー



# 秋冬ニンジン

山武経済センター 営農指導担当者 山本 匠

### 令和3年産の振り返り

昨年は8月上旬の播種時期に台風10号が関東を通過し、降雨量が多くなりました。その後も降雨があった影響で、いくつかの圃場では播種後に地表面が固まり、発芽不良が見られました。生育は、年内は暖冬傾向で進んだことから肥大が良好で、太物比率が多くなりました。年明けも年内の生育が良好だったことから太物傾向で進み、反収は多くなつた一方、需給バランスが崩れ、平均単価は前年よりも下回りました。

今回は次年度へ向け、それらの対策をお伝えします。

### センチウウ対策

殺虫剤は土壌の水分を見て散布しましょう。土壌消毒のD・D剤は、圃場の土を握って、形が少し残るくらいで使用するのが最適です。しかし、実施時期に降雨が多いと土壌水分が多くなり、散布するタイミングが難しくなります。

### 令和3年産の振り返り

令和3年産の抑制トマトは、令和2年産の黄化葉巻病のまん延を踏まえ、抵抗性品種の導入が進みました。そのため、令和2年産のような大きな被害は見られませんでした。また、定植からの温度が例年より低い状況となっていたため、出荷量は大幅に伸びる結果となりました。

### 病害虫対策

**●黄化葉巻病**  
抵抗性品種は病気が発病しなくても感染するため、コナジラミが媒介し発生源になってしまいう可能性があります。そのため、通常の品種と同様にコナジラミをハウスへ入れない、ハウスで増やさない、ハウスから出さない対策が必須となります。

### 対策のポイント

- ①ハウス内へ入れない
- 防虫ネットを展張する(特に低い位置へ)
- ②ハウス内で増やさない
- ホリバー等の粘着板を生長点



写真⑤ アザミウマの被害(トマトの着色ムラ)

**●アザミウマ対策**  
ここ数年、アザミウマの被害果が多く見られるようになっていきます(写真⑤)。アザミウマによる被害は吸汁被害だけでなく、黄化えそ病などのウイルスを媒介し、収量の低下や秀品率の低下を起す可能性があります。アザミウマがいけないからと言って防除しないのではなく、表①を参考に農薬の定期的なローテーション散布を心掛けましょう。

表① トマトに登録のある殺虫剤一覧

薬剤名	散布のタイミング	希釈倍率	使用時期	使用回数
ペリマークSC	～定植時	400～800倍	育苗期後半～定植時	1回
ベネビアOD	定植後10日～15日	2000倍	収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	定植後30日頃から、2～3週間おきにローテーション散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
コルト顆粒水和剤		4000倍		3回以内
アフーム乳剤		2000倍		5回以内
トランスフォームフロアブル		2000倍		2回以内
ダブルシューターSE		1000倍		2回以内

この2種類を栽培初期に使用するのがお勧めです。

### ●その他の対策

生理障害や障害果の発生については、施設内の温度や水分、養

ビーム粒剤(写真①)は新規センチウウ剤で、D・D剤のように土壌水分に注意する必要はなく、ガス抜きも不要です。また、ネマトリンエース粒剤やネマキック粒剤よりも成分が土壌中に溶けにくいので、播種後の激しい降雨等で成分が流出しにくく、1カ月程度の残効が期待できます。

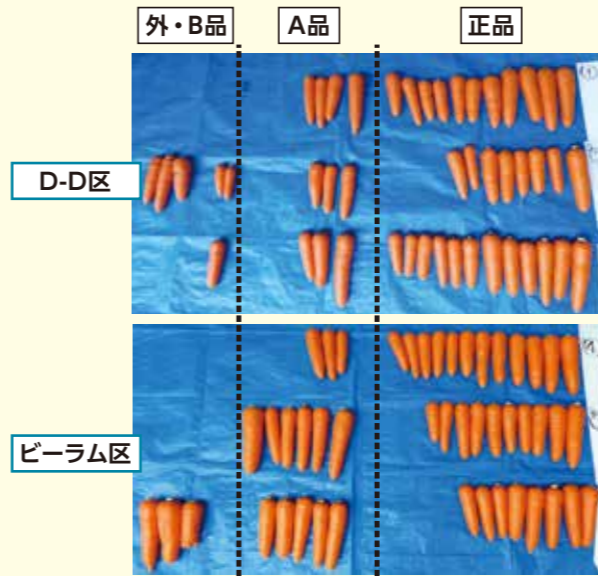


写真① ビーム粒剤

### 肥大防止策

ビーム粒剤とD・D剤との薬剤試験を実施したところ、どちらもセンチウウ被害は見られませんでした(写真②)。従来のセンチウウ剤を使用していた、効果の低下を感じている方は、使用をお勧めします(ニンジンでの使用量10g/㎡当たり20g/㎡)。

昨年は年内が暖冬傾向だったため肥大が進みました。そのような年は12月中旬に摘葉することで、ニンジンの根部の肥大防止につながります(写真③)。山武農業事務所では試験を行ったところ、摘葉しない無処理区と摘葉した処理区を比較すると、摘葉区の根重は20%程度低くなりました(写真④)。ただし、尻詰まりが十分でない時に摘葉処理をする



写真② センチュウ被害の調査結果

と先細になる



写真④ 摘葉処理後の根部外観  
※品種：ペーター 441 (2021年8月11日播種、2022年2月17日調査)



写真③ 摘葉処理後の地上部  
(2021年12月1日摘葉処理)

傾向なので、試し掘りをして尻詰まりが十分であることを確認してから処理を行いましょ。

4月の分析経過について

合計7点	
多成分一斉分析	春ニンジン ..... 2点
	春ブロッコリー ..... 1点
	タマネギ ..... 1点
	大玉スイカ ..... 1点
	青ハグラ瓜 ..... 1点
	夏ネギ ..... 1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 ..... 合計40点

**「営農情報メール」配信中!**  
作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちらから(登録無料)↓

JA山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。

分のバランスの崩れが要因として挙げられます。作付け前に必ず土壌診断を行いましょ。当JAの営農情報メールにて、適時生理障害や防除の情報を配信する予定です。まだ登録されていない方は、お近くの営農・経済センターまでお問い合わせください(このページのQRコードからもご登録いただけます)。